

卷之三

世界最大の製薬企業となるスミスクライン・ビーチャム・グララン・ウェルカム(SKBGW)社の研究開発担当であるタチ・ヤマダ氏は、大きさに言えは命の恩人であり、互いに歩んだ研究仲間であり、豊友である。教えてくれたのが彼だった。ありがたくも、今にしてか懐かしく感じ出である。

八四年には一人ともひしIAを通り、私は東大に、彼は三井がん大に移った。三井がん大で彼は前任のケリー教授にちなんで「ケリーカー記念招へい教授制度」を設立、外部の研究者を一週間ほど歓迎する。

ヤマダ氏は日本生まれだが、新日本製鐵の顧問だった父親の方針で中学まで日本本のアメリカンスクールに通い、その後スランフォード大、ニューヨーク大医学部へと進んだ。米国立衛生研究所（NIH）を経て、一九七

後後に私が勤務していたカリフォルニア大学サンゼルス校(UCSD)内科に消化器専門医として移ってきていた。ある日の主任教授会議でのり。私が下血で倒れて救急に運ばれた時、消化器専門医の呼び出しが駆けつける。大学から民間企業に移る時は、正式発表の一週間ほど前に電話をもらった。今や、同社のトップスピーカーの一人だ。彼のうちは大体が国際舞台で活躍するひとを日本人として誇りしへ思っている。(川かわ・まさし 東海大学医学部長)

」制度を設立し、その一回目に私を選んでくれた。

彼は米国でも有数のリーダーとなり、多くの日本人研究者を育てた。帰国した私のことにもいつも気にかけ、米国で脈の維持に手を貸してくれた。

た方 大学から民間企業に移る
ゼル 時は、正式発表の一週間ほど前に電話をもらつた。今
に消 どや、同社のトップスリーの
てき や、同社のトップスリーの
議で 一人だ。彼のうなづくが
れて 国際舞台で活躍するひとを
化器 日本人として誇りしことも
けつ てゐる。(くわくわ・お山
し)東海大学医学部長)

日本経済新報社. 2000年(12月)27日 (水)